

社会人対象講座 キャリアアッププログラム

Basic subject Career Up Program

広島経済大学キャリアアップ・プログラム・メールマガジン 第132号(2015.01.22発行)

このメルマガは、どなたに転送いただいても構いません。

なお、本メールが不要な方は career-up@hue.ac.jp までご連絡ください。

【CP 通信過去履歴閲覧サイト】: http://www.hue.ac.jp/lecture/careerup/cp_magazine.html

【目次】

- ・巻頭言 広島経済大学 経済学部
経営学科 教授 瀬戸 正則
- ・経大見聞録
- ・3 学期授業風景
- ・ネパール騒動記 『ネパールからナマステ』 Packer Taka
- ・読者の皆様からのエッセーの投稿をお待ちしております
- ・キャリアアップ・プログラム(CP)/カルチャー講座(CS)または本学に関する、ご質問やお問い合わせ

■巻頭言

広島経済大学 経済学部

経営学科 教授

瀬戸 正則

3 学期 CP 講師『中小企業経営論の基礎』

理論と実践の融合を図る経験科学の実学性

経営学の領域で研究を進めるなかで、良く目にするフレーズの一つに「理論と実践の融合」があります。大学院生時代の恩師の言を少し借りれば、経営学というのは、実際の企業の経営活動を研究者がまとめて理論化する、そのまとめた理論を企業がまた経営の現場で応用するといった循環で成り立っている「経験科学(experience science)」です。理論だけ学んでも実際の企業経営は出来ない、だからと言って理論を無視した企業経営は成り立たないということです。経営学を構成する学問の多くが経験科学としての社会科学であるならば、それらは理論的であると同時に実践的でなければなりません。

社会科学の理論と我々の日常生活とは決して遠い存在ではなく、「理論は理論、現実 is 現実」とは割り切れないと思われれます。確かに理論としての説明は、日常的に与えられる説明よりも多少首尾一貫しており、精緻に論理展開される傾向が強いかも知れません。しかし、そもそも社会科学の理論とは社会で普段観察出来る現象を説明する目的から始まっ

ており、その意味では日常的に生起する多様な事象に説明を与えていく行為自体が、既に社会科学としての理論化への作業の一部と言えるのです。

学生が「企業経営に関わる現象を対象とした応用的な社会科学」を学ぶことは、実際の企業活動に関わる出来事や問題について深く考え、的確な分析をし、現実的な解決策を見出すことを通じて真の意味での「実学」を身につけることにつながります。この「実学」には、社会科学の理論としてだけでなく、哲学や思想などの裏付けもあります。私は「経営理念」を経営者や経営継承者の経営に係わる思想・信条・哲学であると概念定義した上で、その浸透問題に係わる新たな理論枠組みの提示を目指し研究を進めていますが、この論究は、まさに経営の哲学や思想といった裏付けへのアプローチでもあります。具体的には、資料を調べ、面接調査をもとに人間行動を見て語りを聞き、その詳細を論理的に考察して理論化していく緻密な作業です。

中小企業経営の現場へのアプローチでは、自己を狭い領域の人間関係に閉ざすことなく、多様で複数の他者や社会に自らのアイデンティティを開示しながら関心を導き、目前の出来事に能動的に参与している経営者の方々に出会いました。そこから得られた発見事実の一つが、自己の立場や物事の見方や対象への理解を他者との関係で深めていく「対話(ダイアログ)」姿勢を貫徹しながらの、予測困難な将来に対する課題への取り組みでした。そしてこの背景に、従来モノローグ的な方法だけでは対処出来ないといった経営者ならではの判断が見えてきたのです。

中小企業研究においては、異質多元性という表現で非組織的な経営実態を課題視する議論があります。組織的な経営が可能で、企業経営に関する理論や法則が通用する大企業とは異なり、中小企業やベンチャー企業においては、経営者の価値観や能力(リーダーシップ、マネジメント能力など)に大きく左右され、ロードマップ(戦略)通りにはなかなかいかないケースが多い実態が指摘されます。「企業は人なり」と良く言われますが、中小企業などの場合は「企業は経営者なり」と言われる所以もここにあります。しかし個別経営を見ていくと、人間のもつ多様性を自ら承認するための「対話」が、「思いやり」の精神で繰り広げられているケースもあるのです。このように経営組織毎にそれぞれ異なる現実に対し、数字だけでは決して見えてこないものに目を凝らしていく参与観察には時間と根気が必要ですが、実践との融合が可能な理論の構築につながる重要なアプローチ法であろうと思います。それゆえ、特に中小企業やベンチャー企業に係わる研究では、実務と理論とのキャッチボールをこなしながら、実学性を担保し得る研究成果を導出していくストイックな姿勢が求められると考え、汗を掻いているところです。

奇しくも今年の干支である乙未年は、「困難を乗り越え、自信をもって創造的かつ着実に事を進めて成果を得る年」になるようです。よって、戦略的な観点から要・不要を分別し、末節にとらわれず、方策等を思い切って整理刷新すると同時に、自ら抱く原点に回帰しながら新たな取り組みも始めたいと思います。企業経営においても、未来を展望し、巨視的な問題にも立ち向かう思い切った対応を頭の片隅に置いた戦略的思考が、いま一度求められているのではないのでしょうか。

■経大見聞録

本学のHPに掲載してある記事をご紹介します。生き活きた明るい学生の表情がうかがえます。URLをクリックして、本学の学生たちの様子をご覧いただければと思います。

お仕事等の気分転換、コーヒープレイクにご覧いただけましたら幸甚です。

【1/8】東北支援プロジェクトが写真展「東日本大震災の記憶 私たちが見た東北」を開催しています

<http://www.hue.ac.jp/tagblocks/news/news/topics/0000008523.html>

【1/13】創ろう！私たちの授業プロジェクトがFD研修会で活動報告を行いました

<http://www.hue.ac.jp/tagblocks/koudoukan/news/topics/0000008533.html>

【1/14】メディアビジネス学科の学生がリポビタン D の WEB CM を制作しました

<http://www.hue.ac.jp/tagblocks/news/news/topics/0000008535.html>

【1/15】食育推進プロジェクトが「HUE産直市」を開催いたしました

<http://www.hue.ac.jp/tagblocks/koudoukan/news/topics/0000008540.html>

【1/16】入門プロジェクト「本の世界に触れようプロジェクト」の認定式を挙行政いたしました

<http://www.hue.ac.jp/tagblocks/koudoukan/news/topics/0000008546.html>

【1/19】第 70 回国民体育大会冬季大会に出場するスケート部の壮行会を挙行政しました

<http://www.hue.ac.jp/tagblocks/news/news/topics/0000008555.html>

【1/19】興動館科目「プロスポーツによる広島活性化講座」の一環として「親子サッカー教室」を開催しました

<http://www.hue.ac.jp/tagblocks/koudoukan/news/topics/0000008559.html>

【1/19】マナー向上委員会、学友会が中心となり「キャンパスクリーンウィーク」の期間中、教室の清掃活動等を行いました

<http://www.hue.ac.jp/tagblocks/news/news/topics/0000008561.html>

■3 学期授業風景

1 月 16 日金曜日から始まりましたキャリアアップ・プログラム(CP)講義の授業風景をご紹介します。

【イスラム経済とイスラム金融】 1 月 16 日金曜日



【日本の財政破綻と金融政策】 1 月 16 日金曜日



【映画と映画祭で学ぶプロジェクト・マネジメントの基礎】 1月19日月曜日



【マーケティング演習】 1月19日月曜日



【日常生活で役に立つ経済】 1月20日火曜日



【中小企業経営論の基礎】



■ネパール騒動記

ネパールからナマステ

Written By Packer Taka

最終話

最後の日、カトマンズ

ネパールに着いた当初、嫌でイヤでたまらなかったこの街が、何となく時間が経つにつれ身体に合ってきているようだ。しかし精神的(?)な下痢はまだ続いている。

朝食前に、『地球の歩き方』（以下“本”）に載っているタメル地区の『おすすめ散策コース』で『切手になった窓』を最後の最後に探してみようと思い、ゲストハウス（以下“GH”）からダルバール広場に向けて歩いて行くが分からず、GH への帰り道は別の道を歩いて探してみたが、どうしても『切手になった窓』が見当たらない。いくら探してもないので、自分の頭の中で『あっ、そうだ！すでに建物は壊されて、無くなっていたのだ。』と思うことにした。

これは言い訳の様だが、きっちりとした碁盤の目のような道だと迷わないと思うが、少しずつ斜めの道になると方向音痴が発揮される。GH への帰り道も迷いそうだったが、何とか戻れた。

朝食の予定は本に載っていた『ギリンチェ』と言う店で『チョウメン(焼きそば)』を食べようと思っている。チョウメンは簡単に言うと、出来の悪い、時間の経ち過ぎた焼きそばと言った感じで、冗談でも美味しいとは言えないものだった。日清の UHO の方



がよほど旨い。

食事後、ビスタさんの事務所へ行くと、まだ彼は入社してなくて、出直すと言って友人から頼まれていた寝袋を買いに出かけた。登山道具の新品や中古品など売っている店を何件か回り、たまたま店頭でスイスのアーミーナイフがあったその店に入ってみた。

店主か従業員か分からないが、店内の床(地べた)でご飯を炊いており、しゃがみ込んで今から朝飯を食べようとしていたところだった。ワシが店内に入っていったものだから、『朝食を食べないか?』と誘われたが、『今、食べたばかりだよ。』と断りお断りした。日本では絶対考えられない光景だった。

店の人が食事を終えるまで店内の商品を見ていた。店の主人に『これ幾ら?あれ幾ら?』とまずこの店の相場を調べた。日本を出る前に登山専門店の“好日山荘”で相場をチェックしてきたので、頭の中で円建ての計算をして、ネパールの価格とすり合わせ、価格交渉に入った。

ワシ『これ幾ら?』、店の主人『〇〇〇〇ルピー』、ワシ『……』、店の主人『要るのか?』、ワシ『要らん!』と言うような会話が何度か続いた。

店の主人は『幾らなら買うの?』と。ワシは『ワシの希望価格言ってもダメだから要らない。』と買う気がないように手を振る。それでも店の主人はまた『幾らなら買うの?』と聞くので、ワシは『これ〇〇〇〇ルピーなら買うよ。』と値札の1/3程度の価格を言うと、彼は3/4程度の価格を言って来る。こうして商談は始まった。

ワシは一言、『ここにある物、すべてコピーでしょ?まして希望価格にならないのだったら要らないよ。』と言ったら、彼は商品を仕分けして、『これは本物で、あれは偽物。触ってごらん、生地が全然違うでしょ。』確かに全く違うが、ネパールでは、あれもこれも全部信用できない。要するに買おうと思う商品と価格が自分に合えば買った方が良いのだ。

交渉が続き、スイスのアーミーナイフだけは日本の価格に比べ1000円位安い価格で手を打ったが、だいたい店内の表示されている価格の35~50%引き前後で買えた。

友人に頼まれた寝袋を買い、自分にはアーミーナイフと大型のリュックサックなどを買った。リュックサックは50LのNothfaceのリュックサックを3500ルピー(4250円)で買ってビスタさんの事務所に行くと、『アーミーナイフの偽物はないと思うが、衣類など偽物が多いので本物だったらいいけどね…』と言われてしまった。

そして、ビスタさんにポカラで乗ったパラグライダーは1時間料金を支払ったが、実際には15分~20分だったことへの払い戻し要求、チトワン国立公園のGHでホテルの従業員に日本の1000円札とネパールの800ルピーを交換してくれと言われ1000円札を渡したが、相手はルピーを支払ってくれなかったと話しをすると、現地に電話をしてくれて両方ともお金が戻って来るようになった。

ビスタさんに『ルピーで返金して良いですか?』と言われたが『ドルで払ったのだから、ドルで返してほしい。』と言うとビスタさんは承知してくれ、わざわざ両替所まで行ってくれ、ドルで返金してくれた。やはり、何でも思うことはハッキリ相手に言わなきゃだめだと思った。今夜はネパール最後の晩なので、ビスタさんが食事に誘ってくれ、夕方GHへ迎えに来てくれることになって事務所別れた。

GHに帰りリュックサックをチェックしているとホコロビがあったので、店に持って行き返品交換してもらった。買った同じ色のリュックが無かったので、仕方なく色を換えた。しかし、帰りの空港でリュックサックがコピーだと税関にバレて、没収されると、中に入っている荷物をどのようにして家に持って帰ろうかと、血液型Aのきっちりした性格のワシは大いに悩んだ…。

昼ご飯はやはり本に紹介されてある店カレー店、『タカリバンチャ』に行き『タカリ・ディッシュ』を注文した。店員から肉以外はお代わり自由だと教えられたが、残念なことに1杯目のカレーだけでお腹一杯になった。

向かいのテーブルに座っている3人の若者を見ていると、ご飯を手で握みカレーのルーを付けて食べている。『ポンポンパツ、ポンポンパツ、』と言う感じで、これがとてもリズムに乗っていい感じなのだ。しかも、指にカレーやご飯がまとわり付いていない。3人とも3~4回はカレーとご飯をお代わりしていたと思う。



GHに帰る途中、布切れ屋さんに目が留まり、縦横2~3m 正方形の民族模様の描かれた壁掛け？が売られていて、その店に入ってみた。

店内を見て回るうち、『象の神様(ガネーシャ)』が描かれた布に目が留まった。当初2500ルピー(1ルピー1.25円、3125円)だった。『私は明日日本へ帰るので、今日の夕食代、明日の朝食代を引くと800ルピーしか無いので要らない、さいなら。』と言って帰ろうとすると、『1500ルピー』、『要らんぜよ！』(急に土佐弁)・・・『最終価格900ルピー』ワシ、手のひらにルピーを拵げ、『ゴメンね、これ800ルピーは商品代、このお金は今日の夕食代、またこのお金は明日の朝食代…800ルピーでないとワタシご飯食べられない。ドルだったら11ドル(当時1ドルは80円)あるよ。』と言うと、『では11ドルで』ということになり、自分への土産としてガネーシャの壁掛けを買った。当時のレートで考えると800ルピーより若干だが安く買えた。その代り、他の店員が次々に『このシャツはどうか？あのシャツはどうか？』と先ほどの壁掛けを儲け損ねた分だけ取り返そうと、色々勧めてくる。しかしワシは『食事代が無くなるから』と涼しい顔して店を出た。そこで買った『ガネーシャ』の壁掛けはワシのお気に入り、毎年夏、自宅のテラスの日除けに使っている。

夕方から凄いいスコールだった。ビスタさんがGHへ迎えに来てくれた時には、雨はさほど降っていなかったけど、レストランに入るや否や、バケツをひっくり返したように雨が降った。以前カトマンズに戻ったら予約しないと入れないレストランに行こうと誘われていたが、観光料金の払戻等で思ったより儲からなかったのか、現地の人がよく行く食堂(ネパール料理の店)へ行った。何故かこういった店の方が、やけに落ち着く。地元の料理を3~4種類食べてビールを呑んだ。



最後のネパールの夜だと思えば意外に色々な事があり、その光景が走馬灯のように思い浮かび、何故か寂しい気がした。

【ネパールで訪ねた処と観光内容】

カトマンズ → マウンテンフライト(エベレストを観る) → ナガルコット → カトマンズ → ポカラ → ポカラの街を歩く → ポカラの街をサイクリング → ポカラでトレッキング → ポカラでパラグライダー → チトワン国立公園 → ワニの夕食になりそうになる → 象に乗りジャングルツアー → 丸太舟でワニの居る川下り → ジャングル徒歩ツアー → カトマンズに戻るバスに乗っていると事故に合う → カトマンズに戻る → カトマンズ散歩、買物 …。

思えばカトマンズのトリブバン国際空港に降り立った時には、一体ワシはどうなるかと思ったが、2週間経つと現地に身体が対応でき、何とか生きていた。

嫌だ、イヤだと言いながらこんなに沢山行動できたのも、ビスタさんをはじめ、GHのスタッフやワシと接したネパールの人達、動物…また、自由闊達なワニには、本当にお世話になりました…。

ネパールを出るまで下痢が続いて体調は良くなかったが、日本に帰国するため経由地、タイのバンコク(スワンナプーム国際空港)に戻ると、不思議に下痢はピツたりと止まっていた。

こんな旅行をしてきても、家に帰りつくと不思議に、「やっぱり、家が一番じゃ！」と思ったことは一度もない。次は何処へ行こうかと地図を広げて、懲りないワシがいるのだった。

The end

■読者の皆様からのエッセーの投稿をお待ちしております

皆様からのエッセーを募集しています。日常の出来事、つぶやき何でも構いません。また匿名やペンネームで結構です。どうぞ投稿をお願いいたします。(個人情報の取り扱いは十分配慮いたします)

【エッセーご寄稿頂ける方は】

どなたでも結構です。寄稿頂ける方は career-up@hue.ac.jp または 082-871-9345 までご連絡ください。掲載の

日程をご連絡いたします。

■キャリアアップ・プログラム(CP)やカルチャー講座(CS)または本学に関する、ご質問やお問い合わせは下記の連絡先へご連絡ください。

731-0192 広島市安佐南区祇園五丁目 37-1

広島経済大学 教育・学習支援センター

お問い合わせは電話番号(082)871-9345 または E-mail career-up@hue.ac.jp までどうぞ。

HUE 広島経済大学
CAREER UP PROGRAM